

森づくり通信

No.61

2021年 9月22日(水)発行 発行/金沢森づくりサポートバンク事務局
〒920-1301 金沢市永安町77番地 (金沢市林業振興協議会内)
TEL:076-229-1699 FAX:076-229-1172



ナナカマド

東京オリンピック、パラリンピック2020が開催された今年。開催の賛否両論はありましたが、個人的には無観客でも開催はよかったですと思います。

出場選手誰もが個々の信念やストーリーがあり、それぞれ感動を与えてくれるものばかりです。

昨年開催予定がコロナ禍のため延期され出場できなかった選手、今年に開催された事でお出場できた選手。アスリートにとってのオリンピックは一生をかけての価値あるものだし、見るものにとっても格別で日本で行ったオリンピックは将来への財産になると思います。

令和3年度 金沢森づくりイベント情報(一般参加可能分)

日程	イベント内容 (予定)	場所	問合せ先
10月9日(土)	KANAZAWA SDGs フェスタ 森竹アート展示(金沢市役所第2庁舎前)他	金沢市市役所第2庁舎前 金沢歌劇座	金沢市森林再生課 076-220-2217
10月30日(土)	森の学校 親子で木や森について学ぼう!	金沢市東原町	金沢市森林再生課 076-220-2217
11月3日(水・祝)	角間里山まつり 里山イベント	金沢大学 角間の里	角間里山みらい 076-256-5338

※新型コロナの状況により開催中止の可能性があります

当協議会通常総会を開催しました



令和3年7月8日(木)10:00~11:10
金沢市林業振興協議会の通常総会を開催いたしました。

小谷県央農林森林部長、長谷金沢市農林水産局長にご出席頂き、委任状を含め16名の会員で令和2年度の事業報告と決算、令和3年度の事業計画及び収支予算について木村事務局長が説明し承認されました。

また門村会長が退任され新会長として山崎新会長に挨拶をしていただきました。

情報交換として県と市の担当者よりパワーポイントを使い施策説明を行って頂きました。



森づくり関連実施報告



森づくり専門員が森づくり活動や出前講座を行います。

金沢市森づくり専門員が子ども達や一般市民、企業等を対象に森林の役割や森づくりの進め方などについて助言し、森の中で間伐体験や植栽活動を通じての森づくり体験学習、学校では金沢の森を整備した際の本木を利用し様々な木製品の工作指導など、森林環境教育を実施しています。

また、NPOなどの森づくりの際には森づくり専門員も可能な限り活動に参加し、道具の貸し出しも行っていきます。

<問い合わせ先> 金沢森づくりサポートバンク事務局 または 金沢市森林再生課 TEL:076-220-2217

8月4・5日(火・水) 夏休みこどもウッティアート

金沢市民芸術村において、金沢の森を整備する中で伐ったスギの間伐材を利用しオリジナルの写真立てを作りました。

毎年2日間でこども100名の募集を行っていますが、今年も応募者202名となり抽選になりました。抽選の結果157名の親子に参加していただき、市民芸術村の一番大きい会場のパフォーミングスクエアで、ゆったりとスペースを取りコロナ対策も万全に行い開催しました。

受付で検温やアルコール消毒をしてもらい、会場は家族ごとのスペースを区切り、金沢市森林再生課の課長より開会の挨拶をして頂きました。



親子で作ってもらう趣旨なので協力して作って頂きました。今回はノコギリを使わなかったため、スムーズに進み飾りつけに時間が取れました。



森づくり専門員から森の働きや木を使う事は地球温暖化緩和に役立つことなどの説明を行い、作品のマニュアルを見て親子で作りはじめました。



森で準備したどんぐりや小枝などをグルーガンで接着し、シールやポストカードで飾りつけを行い、記念に残るように日付や名前を書き込み完成です。



6月22日(火) 内川小学校出前講座

3年生 6名を対象に4月に植菌したシイタケの本伏せ作業をメインに出前講座を行いました。シイタケの本伏せの仕掛けに近くの竹を伐り、児童に玉切り、運搬をしてもらいました。作業終了後伐った竹を利用して竹の食器づくりが楽しかったようです。



7月18日(日) ダンロップの森づくり

北陸ダンロップ社員有志、新人22名がキゴ山ダンロップの森に集合し森づくり活動を行いました。草刈り作業がメインでしたが新人の皆さんには、メイン看板の色褪せ補修や天皇陛下直播のアテ苗の標柱建てを行って頂きました。



7月26日（月）木曳野学童クラブ出前講座

木曳野学童クラブ1年生25名を対象に森の現地出前講座を行いました。

森の探検という事で金沢テクノの森にやってきた児童に、少しの森の話と自然をよく感じてもらうため、林内を散歩しました。



7月30日（木）ほしぞら学童クラブ出前講座

円光寺のほしぞら学童クラブ児童7名を対象に森の出前講座を行いました。

森の話をした後で、学童クラブの希望で鉛筆立てにもなるマルチスタンドを作りました。材料が薄いのでクギ打ちに苦労しました。



8月3日（火）げんきクラブ出前講座

小坂町のげんきクラブ児童36名を対象に森の出前講座を行いました。

今回も環境局とのコラボで人数が多いので2回に分けて地球温暖化の話と森の話、ネームプレートづくりを行いました。



8月10日（火）栗崎児童クラブ出前講座

栗崎児童クラブ児童22名を対象に環境局とのコラボで「金沢エコ森教室」を行いました。

環境局職員が地球温暖化や紙芝居を行い、次に森の話と木を使う事で温暖化を緩和する事を説明し、ネームプレートを作りました。



8月11日（水）木曳野児童クラブ出前講座

木曳野児童クラブ児童3年生7名を対象に森の出前講座を行いました。

森が地球温暖化を防いでくれる話や「雨水のぼうけん」のパワーポイント紙芝居を見てもらい、スギのネームプレートを作りました。



7月27日（火）たいようクラブ出前講座

長坂のたいようクラブ児童26名を対象に森の出前講座を行いました。

今回は環境局とのコラボで最初に地球温暖化の話と紙芝居を見てもらい、森の話の後スギでコマを作ってもらいました。



8月2日（月）おおぞらクラブ出前講座

長坂のおおぞらクラブ児童21名を対象に森の出前講座を行いました。

森の話の後、昨年も出前講座を行っているので、高学年はミニプラランター作りその他はネームプレートとコマを作ってもらいました。



8月6日（月）さいねん学童クラブ出前講座

長坂のおひさま児童クラブで児童28名に対し森の出前講座を行いました。

木の年輪を数えると木の年齢が分る事や、なぜできるかななどの話をして森の話を行い、ネームプレートを作ってもらいました。



8月10日（火）木曳野児童クラブ出前講座

木曳野児童クラブ2年生11名を対象に出前講座を行いました。

パワーポイントで動物のエサのクイズを出し、植物がとても大切な大本になっていることを知ってもらいました。

ネームプレートも制作しました。



8月12日（木）ひまわりクラブ出前講座

涌波のひまわり児童クラブ児童24名を対象に森の出前講座を行いました。

森の恩恵をパワーポイントで説明し、外でスギ円柱材を切ってもらい磨いてネームプレートを作りました。



金沢産材利用促進事業

金沢市森林再生課では金沢産材で木製品を制作し、庁内施設や市内各所に設置し、施設の木質化推進や金沢産材の利用・普及啓発を図る目的で、金沢産材利用促進事業を進めています。

9/7に城北児童館に丸太ベンチ4基とテーブル2台を設置し、利用者に屋外でくつろいでもらえると期待されています。



湯涌温泉は1300年もの歴史を誇り、竹下夢二が恋人と散策を楽しんだといわれる玉泉湖は、ヘイケボタルが飛び交う市内有数の名所です。この度遊歩道が整備され道沿いに金沢産の2種類の木製ベンチを設置しました。

金沢市は産業創出と未来を担う人材の育成を目指し、旧野町小学校舎を利用した「金沢未来のまち創造館」を8/8にオープンしました。内装も木材をふんだんに使い室内にマッチングするベンチを4台設置しアピールしました。



刈払機・チェーンソー 講習会のお知らせ

講習の種類	開催日	開催場所	締切日
刈払機取扱作業安全教育	令和3年 11月5日(金)	石川森林文化 ホール	R3年10月20日(水)
伐木等業務(チェーンソー)特別教育	令和4年 1月12・13・14日	石川森林文化 ホール	R3年12月23日(木)

刈払機やチェーンソーを安全に正しく使うための講習会が実施されています。

登録会員の方には受講に対しての支援を行っていますので、希望される方はこの機会に是非受講下さい。

会場は石川森林文化ホール(金沢市東蚊爪1-23-1)で行います。

※お問い合わせ・お申し込みは、期日まで金沢森づくりサポートバンク事務局までお願いします。

※必ず金沢森づくりサポートバンクにお申し込み下さい。(直接申し込みは補助対象になりません)

編集後記

「法隆寺」

法隆寺は聖徳太子創建の寺で世界最古の現存木造建築物です。ユネスコの世界遺産にも登録されており、私の森の出前講座にも登場してもらっています。木造はしっかりとメンテナンスを行えば1300年以上も保存でき、地球温暖化の原因である二酸化炭素をカンヅメのように閉じ込めている事の話をしていきます。

昭和最後の宮大工と呼ばれた西岡常一さんの話をまとめたNHKブックス「法隆寺を支えた木」では、昭和9年から29年までの昭和の大修理を中心に、法隆寺大工の事から建築道具、木材の事まで体にしみ付いた言葉で語られています。法隆寺は建立以来何回も修理が行われているからもっていると思っている人もいますが、柱や梁、桁などの肝心なところは全て創建当時の樹齢千年を超えるヒノキのままだそうです。

しかし現在国内でヒノキの立木では800年ぐらいの木が最長で、伊勢神宮用材を出す木曾ヒノキでも200~500年だそうです。S43年に薬師寺金堂の再建にあたっては国内で調達できず台湾に協力を得て、ようやく再建にこぎつけたとの事です。今後、寺社仏閣の修復を計画しても、ヒノキの適材が手に入らず不可能に近いといわれています。森は一朝一夕には成らずですね。

